

おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN

4

1994 SPRING



◆シリーズ1 お手玉あれこれ

①姫だるま(愛媛県)

「姫だるまお手玉」(松山市)は、道後温泉の郷土玩具の一つ「姫だるま」を形どったもの。姫だるまは、朱塗の張り子で、黒髪を両側にたらし、胴には金色の宝珠が描かれている。神功皇后が三韓遠征のおり、熱田津(にぎたつ)の石蘭(道後)に立ち寄って、応神帝を出産された、という伝説に因むものとされている。



「特集」 おてだま文化 宮中雲子

◆シリーズ2

◆シリーズ3 グループ登場
琴扇舞会・とんとん座

「お手玉の会」
近況報告
お便り・メツセージ
会則と入会の手続き
グッズ紹介

会員のかけ橋に

II 会報の発刊に当たってII

会長 大賀 弘章

会報「おてたま」をお届けいたします。

日本のお手玉の会が発足したのは、平成四年九月十九日です。新居浜市で第一回お手玉遊び大会の前日に開催した、シンポジウム「いまなぜお手玉なの」の

席上で誕生しました。

シンポジウムでは、「おばあちゃんの復権」「お手玉の直伝は、いまをおいてない」「今年をお手玉復活元年にしよう」と話がありました。

それから一年五ヶ月が経過しました。この間に、会員は三〇〇人に達し、全国各地に広がっています。

事業としては、第二回全国お

手玉遊び大会の開催を初め、出前「お手玉教室」をつづけております。

情報社会の今日、あわただしい生活の中でややもすると、心を見失いがちになります。そこで、お手玉遊びを通じて豊かな心、思いやりの心をとりもどしたいと考えています。

この季刊「おてたま」がお手玉遊びの普及と全国のお手玉ファンを結ぶかけ橋になれば幸いです。

です。

会員の皆様、お手玉に関する情報をお寄せください。また、会員の拡大にもご協力をお願いいたします。



《日本のお手玉の会のあゆみ》

- 平成4年 9月 お手玉の会が「いま、なぜお手玉遊びなの」を開催
この席で「日本のお手玉の会」を設立
- 平成4年 9月 「第1回全国お手玉遊び大会」を開催
団体戦・個人戦・技量認定審査・紙芝居などを実施
- 平成5年 1月 日本のお手玉の会の事務所が完成
- 1月 仙台・宮城放送ラジオ「ユューユーユー」に出演
NHKラジオ「四国のみなさんへ」に出演
南海放送ラジオ「ズームイン朝」に出演
TBSラジオ「歌うヘッドライト」に出演
- 平成5年 4月 愛媛県立新居浜西高等学校で「お手玉クラブ」開講
週1時間・年間30時間 講師担当
- 平成5年 7月 アメリカの大学生37人が新居浜市で2か月間学習
この学生たちと市民との七夕祭りでお手玉交流
- 平成5年 7月 新居浜市を訪問したハンガリー合唱団とお手玉交流
- 平成5年 8月 世田谷区民祭りにお手玉遊びで参加し交流を深める
- 平成5年 9月 南海放送ラジオ「モーニングステーション」に出演
- 平成5年 10月 NHKテレビ「ハロースタジオ」に出演
- 平成5年 10月 「第2回全国お手玉遊び大会」を開催
団体戦・個人戦・創作演技・技量認定審査ほか
- 平成5年 10月 新居浜市ウイメンズクラブの婦人講座で
「楽しいお手玉教室」を開講 講師を派遣
新居浜市「市民健康フェスティバル」にお手玉で参加
- 平成5年 11月 第2回全国お手玉遊び大会 反省会
- 平成5年 12月 東海ラジオの「ミネラルワイド」にてお手玉を紹介
- 平成5年 12月 愛媛県主催の「ゆとりある家庭づくりフォーラム」に
家庭行事紹介の中でお手玉遊びをして参加
- 平成5年 12月 世田谷区の「国際交流の集い」にてお手玉展示
- 平成6年 1月 元旦の日本テレビ「ズームイン朝」に当事務所にて
生放送出演
- 平成6年 1月 新居浜市賑あげ大会に参加し、「市長賞」を受賞
- 平成6年 2月 第5回「インターナショナルパーティ」に協賛し、
お手玉で参加
- 平成6年 2月 新居浜グローバルセミナーに参加し、お手玉を紹介
- 平成6年 2月 愛媛県生活文化若者塾・同女性塾合同交流会にお手玉
で参加

《今後の予定》

- 平成6年 3月 テレビ愛媛「究極！村おこし最前線」収録
- 平成6年 4月 各種イベントにて「お手玉教室」開催予定
高等学校で「お手玉クラブ」開講予定
- 平成6年 8月 愛媛県から全国高等学校文化祭にて、企画と参加協力
依頼を受けております。
- 平成6年 10月 第3回全国お手玉遊び大会を開催
- ※ ニューヨークからの要請もあり、近い将来お手玉にて
日本文化紹介をする計画をしております。
- ※ 今年も例年とおりに各イベント、公民館、各学校にて
「お手玉教室」を予定しております。
各地域にても同様の活動をしていると思いますので、
近況を報告して下さい。

お手玉とわたし

副会長 宮中雲子



◆秋から冬への遊び

もう画かに遠くなった幼い日少しひんやりとした板の間に座って、飽きることなく繰り返し遊んでいたお手玉。春から夏にかけては外での遊びが忙しかつたせいか、お手玉は秋から冬にかけての遊びだったように思う。最初に母が作ってくれたのは、俄型のお手玉だった。それも三つで事足りた。小学校の一年生の頃は、右手から左手へ、左手から右手へ、行ったり来たりを繰り返すだけでけっこう楽しく、掌にしっかりと感じるお手玉の手触りや、中に入られる豆のこすれ合う音を、実感として肌で確かめていた。友達にさそわれれば、外へも持って出て遊んだ。

◆四つはぎが歌しくて

四つはぎお手玉に目を奪われたのは、小学校二年の時のこと。

一つ年上の姉さん格の女の子が、きれいな四つはぎお手玉を五つ、これも立派な巾着に入れて、得意気に遊びに来た日、私には俄型のお手玉がいかにみすばらしく、幼稚に見えたことか。四つはぎお手玉は見た目にきれいだし、手ざわりもしつとりと手の中に納まって心地良かった。その頃はもう、片手で二つのお手玉を操っていたのだったが、おさらの面白さを知ったのも、この四つはぎお手玉だった。

まるで母が魔法使いか手品師のように思えた。母に手伝って小豆を入れると、それはもう粉れもない私の四つはぎお手玉の誕生だった。立派な巾着ではなかったが、かわいらしい花柄の小袋を作ってもらって、私はどこへ行くにも、この五つの四つはぎお手玉を持ち歩いた。三年生になって、教科に履箱が入ってくると、履箱箱を買ってもらっても、母の針や糸を借りなくても、もういつでも自由にお手玉作りが出来るようになった。幸せ。当時は第二次世界大戦の末期で、田舎住居の私たちにも食料難は深刻になってきていたから、お手玉の中に入れる豆はもたらうことが出来ず、冬の川岸を友人たちと珠数玉さがしに歩いたものだった。

寒い風に指先を赤くかじまかせながらも、黒く艶やかな珠数玉を根気よく奥め歩いた。古いお手玉のあずきを取り出して、お汁を作ったという話も聞かれる時代だった。

◆こはぜが作るよい音

その頃、友達の手持っているお手玉がちりんちりん良い音をさせているのに気づき、聞く足袋のこはぜを入れていたという事だった。私が家中の使い古しの足袋を集め、こはぜを取りはずしてお手玉に入れたことは言うまでもない。

着る物はもちろん、布団でも座布団でも、すべて家庭で手作りをしていたから、何かしらの端切れが、いつでも家の中にあつた。母にねだると、あれこれと出してくれたから、どれどれを合わせるときれいかと、四つはぎお手玉のサイズに切った小さな布を机の上に並べて、組み合わせをいろいろ考えるのも楽しみの一つだった。

本も玩具もこれといったものはなく、テレビはもうらん無いらしい頃だったし、我が家にはラジオさえもなかった貧しい暮らしの中で、私たち子供は結構、遊ぶものを見つけて、それを大切にしていた。現代のように、出来上がったものを与えられるのではなく、何かしら工夫して遊んでいくから、かえって自分たちのものをしつかりと持っていた。お手玉遊びも、それに伴う遊び歌も、初めは母から教わったが、年上の女の子たちにもまじって遊んでいるうちに、その数はどんどんふえ、知識も技も広がって子供なりに生活を豊かにしていたものだった。

小学四年で終戦、五、六年の

頃はその後、混雑にいやでも送き送まれていたが、子供の遊びは、それまでに持っていたものを駆使して、不自由は感じなかった。伝統の上に、自分たちの創意工夫を重ねたものであったからこそ、世の中の大きなうねりの中でも見失うことなく維持続け、楽しむことが出来たのだろう。

◆母を友を引き寄せる

振り向けば、歩いてきた道の彼方には、お手玉歌を歌いながら遊んでいる幼い私がいる。傍に母がいる。たあいなくつきあっていた幼な馴染みたちがいる。そこにはいつでも、日だまりのような、なつかしく暖い雰囲気がかかっている。

それから何十年を経て、再びお手玉に親しむ機会を持てた私は、今しみじみ幸せを感じている。なぜなら、お手玉を手にする時、私は今もこの世にいない母を、久しく会うこともない幼な友達を、身のまわりを引き寄せて、そのぬくもりの中にひたる事が出来るのだから。これは、テレビを見るだけ、ファミコンを一人楽しんでるだけの現代の子供たちでは、けっして得られない貴重な豊かさと言えるのではないかと思う。

(詩人・マリアンナ記念館理事)



心は第三二回に飛んでる

琴届舞会お手玉グループ
琴届舞会会首 栗田 和美

大正琴を生き甲斐としている琴届舞の、お手玉大好きグループです。メンバーは、六〇歳から七八歳までの二五人です。毎月一回集まり、お手玉の振り方の基本練習や、タイムを計っての練習に、真剣に取り組んでいます。

●テレビ番組が縁で●

一昨年の元旦のこと。ゆつたりした気分、正月番組を見ていて、思わず「ウワァー」と叫び声をあげました。私の心の奥に、ずうっと憧れのようによい続けていたお手玉を、みんなで楽しそうに遊んでいる、生放送でした。

放送局に問い合わせ、一面でもない新居浜アメニティ倶楽部会長の武田さんに、即、電話をしました。恥ずかしさも迷いもなく、無我夢中で胸のときめきを覚えながら、ダイヤルしたことを思い出します。

電話の第一印象は、お手玉のように暖かく、深みのある、それでいて楽しくしてくださる方に思えました。

新居浜のみなさんの、お手玉にかける情熱、具体的な活動の様子、ピンピンと伝わってきました。

●抵抗もなく仲間●

みなさんにお目にかかったの



は、その年の五月。松山城二之丸史跡庭園の開園イベントで、アメニティ倶楽部が開いた、お手玉コーナーでした。初めてお目にかかったのに、一〇年米の知己のような懐かしさを覚え、何の抵抗もなく、みなさんの間に入って、自分のことのようにお手伝いしました。

この時、第一回お手玉遊び大会への参加を約束しました。まだ実施日が決まっていなかった段階で、もちろん第一号の申し込みました。

●夢のような優勝●

ずっと前から、大正琴のリズム訓練と、軽い健康体操を兼ねて、お稽古の後の三〇分をお手玉の練習に当てていました。

第一回大会には、五〇名で参加し、団体戦、個人戦で優勝という栄誉にあずかり、夢のようでした。会場の設置、企画、演出、進行など、すばらしいもので大満足でした。

第二回大会には、五〇年前の寄せ玉歌を再現して、参加しました。これは、同級生にたずねて回り、図書館で調べ、自分でも歌いながら振ってみて、手ごたえで思い出したりしたものです。会場からの拍手で、苦勞も吹き飛びました。

●笑いを絶やさずに●

昨年の大正琴の発表会では、お客様にお手玉を二個ずつ、記念にお渡ししました。

みなさんにたいへん喜んでいただきました。特別養老老人ホームに、大正琴で慰問に伺うときも、お土産はお手玉です。

今年、月一回集まって、レベルの高いお手玉に挑戦しています。「継続は力なり。練習は力なり」をモットーに、高度な技術、美しい品のある振り方、ステーションの寄せ玉にと、練習に励んでいます。

笑顔で、笑いを絶やさず練習しています。心では第三回お手玉遊び大会に照準を合わせて静かに闘志を燃やしています。

(理事)

私の芸名 おて たまっし

理事 小泉珠子

「ひとみでみやからなつあいか、いとしによくもうし、かまひいふ かまひいふ、くじゅうやつかのおまけに〇〇さんにやつと一丁かしもうした」子供の間、二つのお手玉をつきながら歌った唄です。今でも意味は殆んどわかりませんが、それをちっとも不思議とも思わず五十年も過ぎてしまいました。これが親から子へ、子から孫へと信じて伝わる伝承のすこさではないでしょうか。

私は山形県の南、米沢市からローカル線で三十分、そこからまた山奥へ数キロ入った日本でも屈指の豪雪地帯に生まれ育ちました。

小、中学校が一つの建物で、各クラスを除いた職員室、音楽室、保健室、図書室、体操場は全部共同でした。住み込みの用務員のおじさんの鳴らす鐘の音が、カランカランと小さい学校に響くと、小学一年生から中学三年までの生徒が一同に体操場に集まるとは、何やかやと遊んだものでも、あんなに短い十分間の休み時間でも結構遊べて楽しみの時間でもありました。

冬の代表的な遊びは屋外ではスキーやそり遊び、屋内ではお手玉、まりつき、卓球や縄飛び等でした。中でも小さい子から大きい人までみんなで遊んだ大廻しの縄飛びは、スリルもあってそれはそれは楽しいものでした。

さて、お手玉です。お手玉は、秋から春までずっと続く遊びでした。見よう見まねで毎日毎日練習しては腕を上げて上級生のお姉さん達に遊んでもらったり奮めてもらうのが楽しみでした。高く上げては体をくるくると廻してまたついたり手の甲でひっくり返したり今から思えばあの小さな山あいの学校は、お手玉サーカス学校のように思えます。

春の陽ざしを受けて雪が溶け出し、ちよろちよろと水が流れるふきのとうが顔を出してまだまだ外遊びはできません。桜の咲くのがやつと五月上旬、という春の遠い雪国です。半年近くもお手玉と遊んでいたのですから上手になるのも無理はありません。

おかげで第一回全国お手玉大会選手三〇つきの部のチャンピオンの栄光に輝きました。「私の名前はこいずみたまこ。芸名は おて たまこ です」等といいながらお手玉と名前を売り歩くこの頃です。まさに芸は身を助ける。私の場合は、芸も名も身を助けてくれました。

私にとってのお手玉は、母のぬくもりであり、思い出であり、出会いでもあります。

お手玉は我人生のパラダイス。私の名前、「おて たまこ」をどうぞよろしく。

(世田谷区・ギョウ教師 とんとん座 主宰)

しま4国で

島根県で開催された「しま4国」の大会の様子が、新聞やテレビで大きく取り上げられ、全国的に注目を集めた。...

新居浜市 全国に響け お手玉の音



競技やシンポに3000人

女性パワーで町おこし



1日、仮設中法交流会。市民の集まりが熱く行われ、2日、市民大会。新聞やテレビで大きく取り上げられた。

お手玉の普及活動は 新聞でも紹介される。

世代超え触れ合う

「お手玉」は、古くから日本に伝わる遊戯だが、近年は全国的に普及活動が盛んになり、世代を超えて触れ合う場が生まれている。...

年配者さすがの妙技



新居浜で開催された「全国お手玉大会」で、年配者の妙技が注目を集めた。...

新居浜市内で、お手玉遊びの熱い戦い。...



大会の様子

お手玉大会は、市民の集まりが熱く行われ、2日、市民大会。...



大会の様子

大きく広がった お手玉の輪

ゲームで交流 前期形の会日る 世田谷区民まつりに参加



愛媛新聞 平成五年八月一日

新居浜 少年少女合同ハンガリー

お手玉 折り紙 伝統文化で交流



新居浜市内で、お手玉遊びの熱い戦い。...

1993年 (平成5年) 9月25日 (金曜日)

歴史／作り方／遊び方



新居浜西高にクラブ誕生



お手玉遊びを習う新居浜西高高校のお手玉クラブ員

おてだま^{メッセージ} message

さして玩具などなかった幼いころ、夢中になって遊び戯れた「石なぐ」が、お手玉の原形であり、そして「石なぐ」に類するものが、シルクロード上の、遠くギリシアにまで存在することを教えていただいた時の、身をゆさぶられるような感動は、今でも鮮明に覚えております。

何のたわいもない「石なぐ」に映された、古今東西を結ぶ縁(えにし)を思う時、かのWilliam Brake (ウィリアム・ブレイク)の

"To see a world in grain of sand
(一粒の砂の中に世界を見よ)
And a heaven in a wild flower"
(一輪の野の花の中に天国を見よ)

という詩を思わずにはいられませんでした。正に、"It's a small world after all"
(全く世界は小さいもの)なのです。

アトランタにて 1993. 10. 16
ジョージア工科大学教授 新里瑠美子
(沖縄県島尻郡与那原町出身)

「全国お手玉遊び競技マニュアル集」ビデオを送っていただきありがとうございます。藤本先生の方から連絡を受けました。私達の方も、お手玉の原形といわれる「石なんご」の保存、伝承に紹介ビデオといったものをつくろうとしています。このほど送っていただいたビデオは大変参考になります。活用させていただきます。

1993年8月4日
兵庫県養父郡大屋町
大屋町教育委員会社会教育課
和田 祐之

※注 藤本先生とは京都大学 藤本浩之助教授のことです。

お手玉が、子どもたちの遊びから消えてもうどれだけたつでしょう。しかし、ただ郷愁としてなつかしむだけでなく、今の子どもにとって、むしろまったく新しい遊びを提案できる機会でもあります。

現代の若者や子どもたちが、どう受けとめるか、探ることもできるでしょう。おもちゃとして完成されたものを、決まったルールのもとで遊ぶことの多い時代に、まず、お手玉を手づくりすることからはじまって、遊び方も自由自在に考案出来ます。大勢集まれば、なお楽しくなります。

また、老若男女を問わない「和の遊び」として、受けとめられることでしょう。

1992年9月20日
東京都新宿区大京町
イラストレーター 真鍋 博

本日お手玉の認定用20ヶ拝受いたしました。お心のこもりましたお手玉をありがとうございました。

3月1ヶ月飯田市上郷町図書館でお手玉展を催したいので貸してほしいとの事です。世帯が4,501、人口14,554人の町です。そんなわけで今、ハガキ大の布からいろんな型を考えて10数種類ほどつくってみました。色は5行の色にして1つの型を5の色でつくっています。色と型と音で遊べるようにしたいと思っています。

1994年1月30日
長野県飯田市
篠田 啓子



日本のお手玉の△△に

入△△しまししょう!!

「日本のお手玉の会」はお手玉遊びの復活とさらなる創造を進める愛媛県新居浜市のまちづくりボランティアグループ「新居浜アメニティ倶楽部」の人手が地域で、老人ホームや児童セ

ンター、学校、公民館などでの数年間にわたるお手玉遊び実践を通じて、「今、全国に呼びかけて復活活動をしなければ永久に失われてしまうのでは」と考え、全国の有識者、関係者と相

談し、第一回全日本のお手玉遊び大会の開催日に合わせて、平成四年九月一九日に設立したもので

三世代の交流に、暖かい手づくり文化の体験に、脳と手の機能回復に、新しい手づくり工芸づくりに、海外のジャグリングなどとの交流に、とどんどん広がるお手玉文化、とどまること

ありません。
是非、貴方も「日本のお手玉の会」に入会し、お手玉をネットに加わり、なつかしくも暖かい、新しいふれあい仲間になりましょう。さらに、貴方の地域で支部を作り、お互いの交流を進め楽しい出会いを体験しましょう。

△△ 則

(名 称)

第1条 本会は、「日本のお手玉の会」と称する。

(目 的)

第2条 本会は、日本の伝承文化であるお手玉に関する情報の収集と、お手玉遊びの全国への普及活動を行うとともに、お手玉を通じて世代を超えた交流を図り、健康にして楽しい生活文化の向上に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 全国お手玉遊び大会の開催
- (2) お手玉、お手玉遊び、お手玉歌の調査、収集
- (3) お手玉の作り方、遊び方の実技指導
- (4) お手玉遊びの普及を目的とした認定証の交付
- (5) お手玉遊びの図書出版、映像化
- (6) 芸術品としてのお手玉の製作と販売
- (7) 伝承文化に関する講演会の開催
- (8) その他本会の目的達成に必要な事項

(会 員)

第4条 本会は、その目的と事業に共通する会員をもって構成し、会員の区分は、次のとおりとする。

- (1) 個人会員
- (2) 法人または各種団体会員

(役 員)

第5条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 4名以内
- (3) 理 事 25名以内
- (4) 監 事 3名以内

(役員の仕事)

- 第6条 会長は本会を代表し、会務を処理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を行う。
 - 3 理事は業務の運営に参画する。
 - 4 監事は会の業務および経理を監査し、その結果を総会に報告する。

(役員選任)

- 第7条 会長、副会長は、理事の互選により選任する。
- 2 監事は、理事会の同意を得て会長が選任する。
 - 3 理事は、理事会において会員の中から選任する。

(任 期)

第8条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。

(会 議)

第9条 本会は、次の会議を会長が招集し、開催する。

- (1) 総 会 総会は、年1回以上開催し、事業および経理について審議する。
- (2) 理 事 会 理事会は、必要に応じて随時開催する。

(経 費)

第10条 本会の経費は、会費、特別賛助金、寄付金、その他の収入による。

(会 費)

第11条 本会の会費は、次のとおりとする。

- (1) 個人会員 1年 3,000円
 - (2) 法人または各種団体会員 1年(1口) 10,000円
- 法人または各種団体会員は、何口でも加入できる。

(顧 問)

- 第12条 本会に顧問を置くことができる。
- 2 顧問は学識経験者とし、理事会を経て入選し、会長から就任を依頼する。
 - 3 顧問は、会の業務および活動内容に対して指導、助言を行うとともに、会が主催する講演会などの講師を務める。
 - 4 顧問の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(事 務 局)

第13条 本会の事務局を愛媛県新居浜市に置く。

- 2 事務局に事務局長、事務副次長を各1人のほか必要な事務局員を置くことができる。
- 3 事務局長および事務副次長は、会長が会員の中から選任する。

(会則の変更)

第14条 会則は、理事会の承認を得て変更することができる。

おてだまグッズ



◆ビデオ<VHS>

「全国お手玉競技マニュアル集」

¥5,000

内容15分30秒

全国お手玉遊び大会の模様、競技内容、お手玉の作り方、設け認定についてなど

◆お手玉ハンカチ (大判)

¥800

◆お手玉テレホンカード (2枚組)

¥1,400

◆虫やど人型 (標準) お手玉

5個入り ¥1,100 (箱入り)

3個入り ¥500

3個入り ¥800 (袋入り)

お手玉関連図書

○伝承あそびの教室1 外あそび

田中邦子著 ¥515

○伝承あそびの教室2 内あそび

田中邦子著 ¥515

○つくってあそんで!

お手玉しよう

田中邦子著 ¥1,236

○わたしの心に生きる村

宮中賢子著 ¥1,200

○わすれないよ えりちゃんのふん

宮中賢子著 ¥920

○ビデオ 「おかあさん」

サトウハチロー 自作朗読詩集

¥3,000

○文庫版 詩集 おかあさん

サトウハチロー著

1, 2

¥500

○小説あそび 花嫁

山口信子著 ¥3,500

近況報告

ボンベイ遺跡にお手玉の壁画が!?

この衝撃的な情報はガイド佐久間さんによるもので、解説ではヤギの骨で作った古代の駒車とあるが、その写真は投げて手にのせる遊び方で、大理石に描かれたものだそうです。

※ベルサイユ宮殿でお手玉デモンストレーション※

2月初旬、お手玉を引率の先生が自分の丸めた手袋を加えた3つで披露し、私達、こども達と次々に輪が広がりました。

平成6年10月2日(日) 第3回お手玉遊び大会開催決定。

場所: リー加代妹が新居浜 前日に総会、前夜祭を検討中



発行・編集

日本のお手玉の会

新居浜アメニティ倶楽部お手玉委員会

愛媛県新居浜市庄内町1-13-14 〒792 TEL・FAX/0897-36-0600